山口県萩市での生活の記録

萩にあしあと残そうよ

「市内外の花を追いかけて。」

令和３年(2021)
４月１日発行
－第 22 号－
発行：大塚好一

岩国城にて。

〔自由気ままな歌日記〕

あきらかに漢字の読みを
間違えて　またあなたかと
ラジオをにらむ
（三月二日）

糸桜求めて遠方より来たる
夫婦に乞われ
シャッターを押す
（三月九日）

珍しく頭痛に悩む
週末の予定取り消し
友に会えぬ夜
（三月一三日）

花盛る維新の里の光景を
スマホで送る故郷の母に
（三月二五日）

波がしら割れて響くは
上空に咲いた
花火の轟きに似て
（三月二九日）

〔日々の暮らし〕

春の温もりとともに、萩市内でも様々な名物桜が花開きました。せっかく近くに住んでいるのだからと、開花情報が入るとさっそく出かけました。もちろん、市内にとどまらず岩国錦帯橋にも足を伸ばしました。以前は長距離運転が苦手だったのに、遠出も苦にならなくなりました。

先日、近所の人から採ったばかりの生ワカメを二kgもいただきました。ゆで方のアドバイスを受け、熱湯にくぐらせたら鮮やかな緑色に。小分けにして冷凍保存してあります。香りや食感が良いです。

勤め先では、新入社員を一人迎えるそうです。

〔あしあとノート〕

◆萩市長選は現職が敗北◆

三月二一日執行の萩市長＆議員補選は、即日開票の結果二期目を目指した現職を、元県議の新人が破り当選を果たしました。有権者の関心も高く、投票率も六六・六六％と前回を上回り、得票差は五百票という僅差でした。

◆徳佐八幡宮の桜並木◆

徳佐八幡宮の参道の桜並木。

山口市阿東の徳佐八幡宮の参道は、シダレザクラやヒガンザクラを主とした約三七〇ｍの桜並木となっています。江戸時代の文政八年（一八二五）に氏子有志により植栽されたのがルーツといわれ、現在も地元の人々が大切に管理し、また増植を図っているそうです。圧巻でした。

◆瑠璃光寺五重塔◆

瑠璃光寺も修学旅行最終日に訪問した思い出の場所です。

山口県庁近くの瑠璃光寺には国宝の五重塔があります。毎夜ライトアップされているので、出かけたついでに寄り道してみました。桜も満開となったためか、多くの人が見学に来ていました。でも、桜にはライトは当てられていないのですよ…。

◆萩反射炉の散り桜◆

雨風が強かった翌日の朝、コインランドリーの待ち時間に萩反射炉へ行ってみると、はかなく美しく桜が散っていました。早いものです。

萩反射炉の園地。

〔波間のエッセイ〕

『野に山に咲くコブシ』

市外へ出かける際によく通る県道沿いの街路樹が、白い花を咲かせ目を楽しませてくれました。ハクモクレンと推測しましたがコブシでした。耳慣れた演歌の影響から、コブシは北国という印象を持っていたので意外でした。

日本全土に広く分布しているコブシ。そんな知識を得て周囲を見渡すと、野に山に、そして庭や街路に、まさに至るところに生育していることに気がつきました。

私の故郷・塩原では、ピンク色のヤシオツツジが、春の到来を告げる花として渓谷を彩ります。郷愁を覚えながらも、新たな光景との出会いに喜びを感じました。

何度か途切れるものの４㎞を超すコブシロードです。

〔萩の五十音　その④〕

勇壮な　和船競漕おしくらごう

六月初旬に玉江浦地区の橋本川を会場に行われる「おしくらごう」は、藩政時代から受け継がれている伝統の和船競漕です。ねじりはちまきに下帯姿の若者たちが、掛け声を合わせて櫂を漕ぎ、白熱した水上のレースを繰り広げます。

しろ魚漁　春の風物四つ手網

二月下旬から三月にかけて、松本川河口付近では四つ手網を使ったシロウオ漁が行われます。目の細かい網の四隅を竹で吊るして川底に沈め、魚が通り過ぎるタイミングを見計らって引き揚げます。踊り食いや天ぷら、卵とじなどで食されます。

噴火史を　ひもとく魅力ジオパーク

萩市・阿武町・山口市にまたがる萩ジオパーク。一億年にわたるマグマの活動によって作られた大地を舞台に、自然と向き合ってきた人々の姿を見つめることで学びや発見があります。城下町・萩焼・山海の幸もマグマとの関わりがあります。

小さな火山：笠山の山頂園地も桜の名所です。沖に浮かぶ島々の眺望スポットです。

石だたみ続く街道　萩往還

萩往還は、萩から山口を通って三田尻（現在の防府）まで続く五三kmの街道です。毛利藩主の参勤交代にも使われたので「御成道」ともいわれ、商人や農民、維新の志士たちも往来しました。現在も石畳や峠道などが昔のままに残されています。

咲き乱れ　散り敷く椿の群生林

笠山の先端部、虎ヶ崎周辺にはヤブツバキの群生林が広がっています。二月中旬から三月中旬頃に見頃を迎え、市内外から多くの人が訪れます。その数六〇余種二万五千本。椿といえば、足もとを真紅に染める「落ち椿」の美しさも見応えがあります。

天樹院　輝元公の夫婦墓所

萩の開祖である毛利輝元公と夫人が眠る墓所は、もともと輝元公の隠居所「四本松邸」があった場所です。死後に菩提寺として天樹院が創建され、明治二年（一八六九）に廃寺となり、今はひっそりと墓所が残るのみ。天樹院は輝元公の法号です。

堀内と平安古の筋の鍵曲

鍵曲とは、左右を高い土塀で囲んだ道を直角に曲げて見通しを悪くした街路で、城下町特有の道筋です。侵入してきた敵を迷わせ追い詰めるため、追い回し筋とも言われます。閑静な場所で、萩ならではの雰囲気が味わえる場所です。

万灯会　送り火ゆれる東光寺

東光寺は、全国屈指の黄檗宗の寺院で、総門・山門などが国の重要文化財です。大照院と並ぶ毛利家の菩提寺で、三～一一代までの奇数代藩主夫妻が葬られ、八月一五日の「萩万灯会」の送り火では、約五百基の石灯籠に灯が入ります。